

ゆとり

(理 念)

地域の基幹病院として、患者様に信頼され、
愛され、満足される、質の高い医療を目指します。

(基本方針)

1. 高度医療の充実
 1. 高齢化社会への対応
 1. 予防医学の充実
- を目指した、「手作りの医療」を心がけています。

** Topics **

TOPICS 1 腹部大動脈瘤と治療

TOPICS 2 インフルエンザワクチン接種について

TOPICS 3 血液がん検査 (AICS) の紹介

～お知らせ～

- ◆平成27年10月9日より**インフルエンザワクチン接種**が始まりました。
詳しくは新患受付、または総合受付スタッフへお申し出ください。
- ◆**血液がん検査 (アミノインデックス : AICS)** が新しくなりました。
詳しくは予防医学センタースタッフまでお問合せください。
- ◆平成27年10月より、**外来担当表が一部変更**になりました。

■当院ホームページ

<http://www.shimada-hsp.or.jp>



※スマホ・タブレット版
外来担当表ダウンロード (PDF)



医療法人積仁会
島田総合病院

〒288-0053
千葉県銚子市東町5番地の3
TEL. 0479-22-5401 FAX. 0479-23-3613
URL <http://www.shimada-hsp.or.jp/>

1. 腹部大動脈瘤について

腹部大動脈瘤とは、動脈硬化や血管疾患などにより腹部の大動脈がコブ状に拡大したものを腹部大動脈瘤といいます。

腹部大動脈から腸骨動脈まで拡大する場合や、腸骨動脈のみコブ状になる場合もあります（図1、図2）。

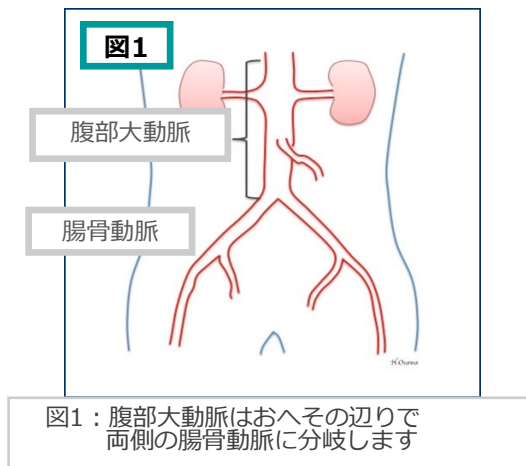


図1：腹部大動脈はおへその辺りで両側の腸骨動脈に分岐します

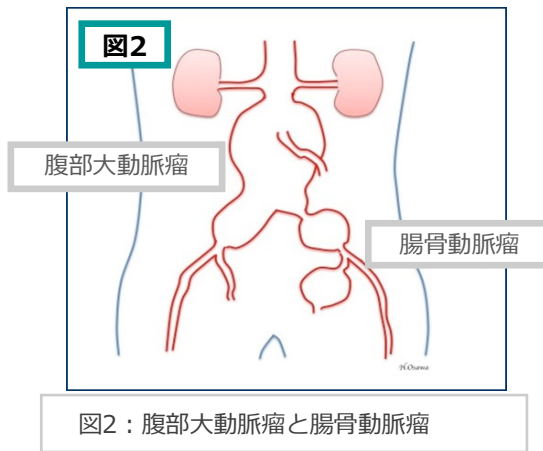


図2：腹部大動脈瘤と腸骨動脈瘤

2. 腹部大動脈瘤の原因は…

原因は、動脈硬化や血管疾患などにより血管壁が弱くなるため、**高血圧**が大きく関与しています。

動脈瘤が大きくなると破裂の危険があり、破裂した場合は腰や腹部に激しい痛みを生じ、ショックに陥りほとんどの方が死に至ります。

運良く破裂後に緊急手術を受けることが出来ても半分の方は助かりません。

そのため大動脈瘤が見つかった場合は**破裂をする前に手術を受ける**ことが重要です。

3. 腹部大動脈瘤の手術方法は…

一般に瘤の大きさが大動脈瘤の場合直径4.5～5cm、腸骨動脈瘤の場合は3cmを超えると破裂の危険が生じるため手術による治療の適応になります。

手術には、①おなかを切って人工血管置換を行う**開腹手術**と、②カテーテルによるステントグラフト内挿を行う**血管内手術**があります。

血管内手術はおなかを切らないで済むという利点がありますが、日本では開腹手術の成績が血管内手術より良く、ステントグラフトは長期の経過が不明で再手術の可能性あります。

そのため、現在のステントグラフトの適応は、高齢で開腹手術の方が明らかに危険な人が対象になり、動脈瘤の形態にも制限があります。

70歳以下の若年者やリスクの少ない人は開腹手術が安全で一番確実な治療法です。

治療法① 開腹手術

実際の手術前・手術後の大動脈瘤のCT写真（写真1、写真2）を比較提示いたします。

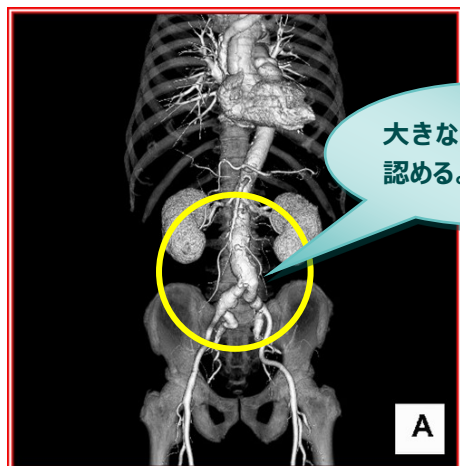


写真1：手術前のCT写真

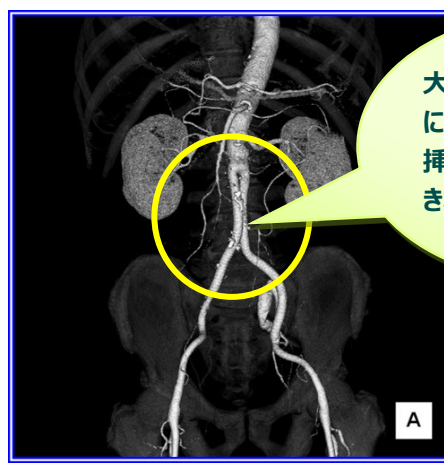


写真2：手術後のCT写真

開腹手術はおなかを切って大動脈瘤を剥離し、人工血管に変える手術です。日本では最もポピュラーな大動脈瘤の手術方法で、長期の経過も最も良いとされています。開腹手術の場合の傷は10～15cmくらいで、手術時間は3-4時間程度です。おなかを切って手術をするため、手術後数日間は食事をすることができません。また、創部の痛みも個人差はあり、痛むこともありますが痛み止めによる緩和を同時に行いますので安心ください。手術後数日で食事を開始し、同時に退院に向けてリハビリを開始します。順調に経過をたどると、約1週間ほどで退院となります。

当院では、自己血回収装置を用いた自己血輸血を併用し、**経験豊富なスタッフによる手術**を行っています。また、手術の実績についても当院心臓血管外科のHPにも掲載されていますので、ぜひご参照ください。

治療法② 血管内手術（ステントグラフト）

従来のおなかを切って行う開腹手術とは違い、足の付け根を3cmほど切開して、大腿動脈という血管からカテーテルを挿入し、動脈瘤の内側から金属性の網状の筒（ステント）で裏打ちされた人工血管を圧着させる方法です（**図3**）。この方法は従来の開腹手術と比較して安全で、2-3時間程度と短時間で完了できます。また、手術後すぐに食事を取ることもでき、入院期間も数日程度と体に大きな負担をかけることなく治療ができます。この治療は15年ほど前から始められた新しい治療法ですが、欧米では腹部大動脈瘤の6割以上がステントグラフトで治療されるようになりました。しかしながら、腹部大動脈瘤の形態や腎動脈との位置関係、下肢動脈の硬化性病変の有無など適応に制限があります（**表1**）。また、ステントグラフトの合併症に関しては血管損傷や動脈塞栓の危険性、ステントグラフトとの隙間などから血液が動脈瘤の中に漏れて、将来的に動脈瘤が拡大してくる可能性も1%未満程度に起こり得ると報告されています。手術後の生活上の制限はありません。手術後は年1回のCT検査を中心に数年間、経過観察します。

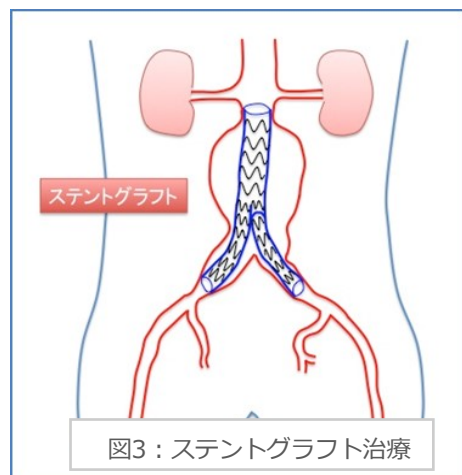


図3：ステントグラフト治療

ステントグラフトの適応

表1

1. 高齢者

70歳以上：若年者では再手術の頻度が高くなるため

2. 開腹手術の危険の高い症例

開腹術後、心臓病などのため開腹手術の方がリスクが高い症例

3. 動脈瘤の形態がステントグラフトに適している症例

動脈の大きさ、蛇行や狭窄が障害にならない・・・など

※上記、1～3のすべてを満たしている場合に適応となります。

腹部ステントグラフト実施施設 に認定されました

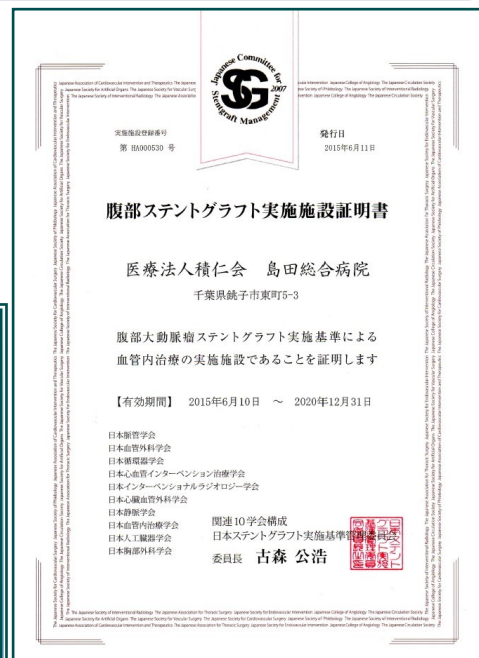
当院は平成27年6月より「**腹部ステントグラフト実施施設**」に認定され、開腹手術だけでなく血管内手術を実施できるようになりました。

したがって、今までは手術が困難であった高齢の方や開腹での手術に抵抗のあった方なども当院で**腹部大動脈瘤の治療**ができるようになりました。

※腹部大動脈瘤の状態や年齢などによっては血管内手術が適応できないこともあります。
気になる方は当院「心臓血管外科」にご相談ください。

大動脈瘤は、**かなり大きくなるまで症状もないため**、破裂して初めて見つかることも少なくありません。

高血圧や高脂血症、糖尿病などの動脈硬化の素因のある方は、超音波検査やCT検査などを一度受けることをお勧めいたします。



TOPICS 2

インフルエンザワクチン接種開始のお知らせ

◆◆ 当院では、10月9日より今期の**インフルエンザワクチン接種**を開始しました。◆◆
ワクチン接種を希望される際に**事前の予約は不要で、来院日の当日受付でも接種が可能です。**

料金 一般： **¥3,000** (税込) 1歳～大学生： **¥2,500** (税込)

※高校生・学生の方は**受付の際に必ず学生証**をご提示ください。提示の無い場合には**一般料金での接種**となることがありますのでご注意ください。

助成金について

銚子市在住の方へ

助成金対象者

- ・65歳以上
- ・60歳～64歳の身障1級

助成金

- ・¥1,000

助成実施期間

- ・平成27年10月1日～12月31日

神栖市在住の方へ

今年度より当院において、神栖市との予防接種相互乗り入れが開始致しましたので、**神栖市の予診票をお持ちいただく**だけで、接種可能となりました。

助成金

- ・¥2,000

助成対象者

- ・1歳～小学6年生まで
- ・65歳以上
- ・60歳～64歳の身障1級

助成実施期間

- ・平成27年10月1日～平成28年1月15日

その他インフルエンザワクチン接種に関するご質問は**新患受付（午前）**、または、**総合受付（午後）**のスタッフまでお問合せ下さい。

TOPICS 3

血液がん検査（AICS）のご紹介

当院では**血液がん検査（アミノインデックス：AICS）**を導入しています。

この**AICS**は将来的にがんになる可能性があるかを調べる検査です。

今までのがん検査（腫瘍マーカー）ではわかりにくかった早期のがんについても、**血液中のアミノ酸**を調べることでがんになりやすいのかがわかります。

現在は**男性で5種類、女性で6種類**のがんについて調べることができます（下記参照）。

※AICSは他の検査の採血と同時にでき、結果は**約2週間**ほどでわかります。

TVで
やってみました!!

検査の対象となるがん

【男性】 5種：大腸がん、胃がん、肺がん、膵臓がん、前立腺がん

【女性】 6種：大腸がん、胃がん、肺がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん・卵巣がん

【検査料金】 男女とも ¥25,000 (税別)

注) A（低い）～C（高い）の三段階で評価をします。

この検査でがんになる可能性が高いと判定されたとしても**必ずしもがんになるとは限りません**し、可能性が低いからと言って**がんにならないとも限りません**。あくまでもAICSは上記のがんになりやすい体質であるかを調べる検査です。

わからないことや気になることは担当の医師、もしくはかかりつけの医師にご相談ください。

気になる方、または当院にて検査をご希望される方は **予防医学センタースタッフ** までお問合せください。